

# DI ニュース

徳山医師会病院 薬局

TEL:0834-31-7716

FAX:0834-32-5349

e-mail:yaku2@tokuyamaishikai.com

薬局ウェブサイト [http://hospital.tokuyamaishikai.com/introduce\\_list/](http://hospital.tokuyamaishikai.com/introduce_list/) より「薬局」をクリック

## 1. お知らせ

○献血ヴェノグロブリン IH 5% 静注(日本血液製剤機構)の【効能・効果】、【用法・用量】に追加がありました。それに伴い、「使用上の注意」などの内容も改訂されました。

また、副作用の項目については発現状況の概要が記載整備されました。

※下記以外の副作用状況の概要やその他の項目については添付文書をご参照ください。

(下線部\_\_\_\_追記箇所)

### 【効能・効果】

ギラン・バレー症候群 (急性増悪期で歩行困難な重症例)

### 【用法・用量】

ギラン・バレー症候群：通常、1日に人免疫グロブリンGとして400mg(8mL)/kg体重を5日間連日点滴投与する。

### 【使用上の注意】

2. 重要な基本的注意 (1)～(10) 変更なしにて省略

(11) ギラン・バレー症候群においては、筋力低下の改善が認められた後、再燃することがあるので、その場合には本剤の再投与を含め、適切な処置を考慮すること。

○ザイザル錠 5mg 及びザイザルシロップ 0.05%の【使用上の注意】内の過量投与の項目が一部追記されました。(下線部\_\_\_\_追記箇所)

### 【使用上の注意】

1.～8. 変更なし省略

9. 過量投与

徴候、症状：本剤の過量投与により傾眠傾向があらわれることがある。特に小児では激越、落ち着きのなさがあらわれることがある。

## 2. 医薬品安全対策情報

Drug Safety Update No.257(2017.3)

添付文書の改訂

★最重要と☆重要のうち、当院採用薬のみを記載

### ☆ヒドロキシジン塩酸塩(アタラックス錠、アタラックスP注射液 / ファイザー)

【副作用】の「重大な副作用」  
追記

「急性汎発性発疹性膿疱症：  
急性汎発性発疹性膿疱症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。」

### 3. 新規収載医薬品

2017年2月15日

#### ●内用薬

#### テクフィテラカブセル 120mg、240mg

|       |   |
|-------|---|
| 製造・販売 | バイオジェン・ジャパン   |
| 分類    | その他の中枢神経用薬  |
| 一般名   | フマル酸ジメチル  |
| 薬価    | 120mg : 2,037.20円    240mg : 4,074.40円  |
| 効能・効果 | 多発性硬化症の再発予防及び身体的障害の進行抑制   |
| 用法・用量 | 通常、成人にはフマル酸ジメチルとして1日120mg1日2回から投与を開始し、1週間後に1回240mg1日2回に増量する。なお、いずれの場合も朝・夕食後に経口投与する。 |

#### リンゼス錠 0.25mg

|       |   |
|-------|---|
| 製造・販売 | アステラス製薬   |
| 分類    | その他の消化器用薬   |
| 一般名   | リナクロチド  |
| 薬価    | 92.40円  |
| 効能・効果 | 便秘型過敏性腸症候群  |
| 用法・用量 | 通常、成人にはリナクロチドとして0.5mgを1日1回、食前に経口投与する。なお、症状により0.25mgに減量する。 |

#### オテスラ錠 10mg、20mg、30mg

|       |  |      |   |   |     |      |   |     |      |      |     |      |      |     |      |      |     |      |      |       |      |      |
|-------|--|------|---|---|-----|------|---|-----|------|------|-----|------|------|-----|------|------|-----|------|------|-------|------|------|
| 製造・販売 | セルジーン  |      |   |   |     |      |   |     |      |      |     |      |      |     |      |      |     |      |      |       |      |      |
| 分類    | 他に分類されない代謝性医薬品   |      |   |   |     |      |   |     |      |      |     |      |      |     |      |      |     |      |      |       |      |      |
| 一般名   | アプレミラスト  |      |   |   |     |      |   |     |      |      |     |      |      |     |      |      |     |      |      |       |      |      |
| 薬価    | 10mg : 324.20円    20mg : 648.40円    30mg : 972.60円   |      |   |   |     |      |   |     |      |      |     |      |      |     |      |      |     |      |      |       |      |      |
| 効能・効果 | 局所療法で効果不十分な尋常性乾癬 関節症性乾癬  |      |   |   |     |      |   |     |      |      |     |      |      |     |      |      |     |      |      |       |      |      |
| 用法・用量 | 通常、成人にはアプレミラストとして以下の通り経口投与し、6日目以降はアプレミラストとして1回30mgを1日2回、朝夕に経口投与する。<br><table border="1" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td></td> <td>朝</td> <td>夕</td> </tr> <tr> <td>1日目</td> <td>10mg</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>2日目</td> <td>10mg</td> <td>10mg</td> </tr> <tr> <td>3日目</td> <td>10mg</td> <td>20mg</td> </tr> <tr> <td>4日目</td> <td>20mg</td> <td>20mg</td> </tr> <tr> <td>5日目</td> <td>20mg</td> <td>30mg</td> </tr> <tr> <td>6日目以降</td> <td>30mg</td> <td>30mg</td> </tr> </table> |      | 朝 | 夕 | 1日目 | 10mg | - | 2日目 | 10mg | 10mg | 3日目 | 10mg | 20mg | 4日目 | 20mg | 20mg | 5日目 | 20mg | 30mg | 6日目以降 | 30mg | 30mg |
|       | 朝  | 夕    |   |   |     |      |   |     |      |      |     |      |      |     |      |      |     |      |      |       |      |      |
| 1日目   | 10mg   | -    |   |   |     |      |   |     |      |      |     |      |      |     |      |      |     |      |      |       |      |      |
| 2日目   | 10mg   | 10mg |   |   |     |      |   |     |      |      |     |      |      |     |      |      |     |      |      |       |      |      |
| 3日目   | 10mg   | 20mg |   |   |     |      |   |     |      |      |     |      |      |     |      |      |     |      |      |       |      |      |
| 4日目   | 20mg   | 20mg |   |   |     |      |   |     |      |      |     |      |      |     |      |      |     |      |      |       |      |      |
| 5日目   | 20mg   | 30mg |   |   |     |      |   |     |      |      |     |      |      |     |      |      |     |      |      |       |      |      |
| 6日目以降 | 30mg   | 30mg |   |   |     |      |   |     |      |      |     |      |      |     |      |      |     |      |      |       |      |      |

#### ジメンシー配合錠

|       |  |
|-------|--|
| 製造・販売 | ブリistol・マイヤーズスクイブ                              |
| 分類    | 抗ウイルス剤   |
| 一般名   | ダクラタスビル塩酸塩/アスナプレビル/ベクラブビル塩酸塩                   |
| 薬価    | 11,528.80円                                     |
| 効能・効果 | セログループ1（ジェノタイプ1）のC型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善 |
| 用法・用量 | 通常、成人には1回2錠を1日2回食後に経口投与し、投与期間は12週間とする。         |

#### ベムリティ錠 25mg

|       |             |
|-------|-------------|
| 製造・販売 | ギリアド・サイエンシズ |
| 分類    | 抗ウイルス剤      |

|       |  |
|-------|--|
| 一般名   | テノホビル アラフェナミドフマル酸塩                                   |
| 薬価    | 996.50 円   |
| 効能・効果 | B型肝炎ウイルスの増殖を伴い換気能の異常が確認されたB型慢性肝疾患患者におけるB型肝炎ウイルスの増殖抑制 |
| 用法・用量 | 通常、成人にはテノホビル アラフェナミドとして1回25mgを1日1回経口投与する。            |

### リアメット配合錠

|       |  |
|-------|--|
| 製造・販売 | ノバルティスファーマ   |
| 分類    | 抗原虫剤   |
| 一般名   | アルテメテル/ルメファントリン  |
| 薬価    | 242.30 円   |
| 効能・効果 | マラリア   |
| 用法・用量 | 通常、体重に応じて1回1錠～4錠（アルテメテル/ルメファントリンとして20mg/120mg～80mg/480mg）を初回、初回投与後8時間後、その後は朝夕1日2回2日間（計6回）食直後に経口投与する。<br>体重別の1回投与量は以下の通りである。<br>5kg以上15kg未満 : 20mg/120mg（1錠）<br>15kg以上25kg未満 : 40mg/240mg（2錠）<br>25kg以上35kg未満 : 60mg/360mg（3錠）<br>35kg以上 : 80mg/480mg（4錠） |

### ●注射薬

#### オビドレル皮下注シリンジ 250 $\mu$ g

|       |   |
|-------|---|
| 製造・販売 | メルクセローノ   |
| 分類    | 脳下垂体ホルモン剤   |
| 一般名   | コリオゴナドトロピンアルファ（遺伝子組換え）                                  |
| 薬価    | 2,910 円   |
| 効能・効果 | 視床下部-下垂体機能障害に伴う無排卵・希発排卵における排卵誘発及び黄体化生殖補助医療における卵胞成熟及び黄体化 |
| 用法・用量 | コリオゴナドトロピンアルファ（遺伝子組換え）として250 $\mu$ gを単回皮下投与する。          |

#### モソビル皮下注 24mg

|       |  |
|-------|--|
| 製造・販売 | サノフィ   |
| 分類    | その他の血液・体液用薬  |
| 一般名   | プレリキサホル  |
| 薬価    | 581,972 円  |
| 効能・効果 | 自家末梢血幹細胞移植のための造血幹細胞の末梢血中への動員促進   |
| 用法・用量 | G-CSF製剤との併用において、通常、成人にはプレリキサホルとして0.24mg/kgを1日1回、抹消血幹細胞採取終了時まで連日皮下投与する。 |

#### パーサビフ静注透析用 2.5mg、5mg、10mg

|       |   |
|-------|---|
| 製造・販売 | 小野薬品工業  |
| 分類    | その他の血液・体液用薬   |
| 一般名   | エテルカルセチド塩酸塩   |
| 薬価    | 2.5mg : 873 円    5mg : 1,283 円    10mg : 1,885 円  |
| 効能・効果 | 血液透析下の二次性副甲状腺機能亢進症  |
| 用法・用量 | 通常、成人には、エテルカルセチドとして1回5mgを開始用量とし、週3回、透析終了時の返血時に透析回路静脈側に注入する。以後は、患者の副甲状腺ホルモン（PTH）及び血清カルシウム濃度の十分な観察のもと、1回2.5mg～15mgの範囲内で適宜用量を調整し、週3回、透析終了時の返血時に投与する。 |

## キイトルーダ点滴静注 20mg、100mg

|       |  |
|-------|--|
| 製造・販売 | MSD  |
| 分類    | その他のアレルギー用薬  |
| 一般名   | ペムブロリズマブ（遺伝子組換え）   |
| 薬価    | 20mg：84,488円　100mg：410,541円  |
| 効能・効果 | 根治切除不能な悪性黒色腫<br>PD-L1陽性の切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌  |
| 用法・用量 | <根治切除不能な悪性黒色腫><br>通常、成人には、ペムブロリズマブ（遺伝子組換え）として、1回2mg/kg（体重）を3週間間隔で30分間かけて点滴静注する。<br><PD-L1陽性の切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌><br>通常、成人には、ペムブロリズマブ（遺伝子組換え）として、1回200mgを3週間間隔で30分間かけて点滴静注する。 |

## 4. Q&Aコーナー

### ★肝障害がある患者への点滴はヴィーン何が良いか？

ヴィーンFの方が適していると考えます。ヴィーンDには副作用で肝機能障害の記載あり。  
※ヴィーンFの方が乳酸アシドーシスになりにくい。

### ★フレストルテープとは何か？

モーラステープのジェネリック医薬品。

### ★ゾシンの投与回数はいくつ？

尿路感染の場合は1日2回。敗血症・肺炎・腹膜炎等の場合は1日3回。

### ★デカドロンを内服から注射へ切り替える場合、どのぐらいの量にすれば良いか？

通常は等量で変更し、臨床効果を見て増減を行う。

## 5. 全身投与ステロイド薬の薬剤間の対応量について

全身投与ステロイド薬の投与方法を変更する場合（内服→注射、注射→内服）や、持参薬から当院採用の経口ステロイド薬へ切り替える場合などに、換算量について問い合わせを受けることがあります。

通常、ヒドロコルチゾンの抗炎症力価を1とした時、コルチゾンが0.8倍、プレドニゾロンが4倍、メチルプレドニゾロンとトリアムシノロンが5倍、デキサメタゾンが2.5倍、ベタメタゾンが2.5～3.0倍となっています。

投与経路を変更する場合、生体内有効利用率（バイオアベイラビリティ。投与された薬物が吸収されて体循環に到達する量を静注時と対比して相対的に示したもの： $AUC_{po} / AUC_{iv}$ ）を考慮しなくてはなりません。生体内有効利用率は薬物の投与経路による利用率の指標として用いられ、通常は、経口投与の場合は薬物の消化管吸収が完全ではなく、体循環に入る前に肝代謝されるため低い値となります。つまり、投与量としては内服薬 $\geq$ 注射薬という図式が出来上がります。

しかし、経口ステロイド剤はそのままの形で作用を発揮できる活性型が製剤化されており、吸収が非常に良好でほぼ100%吸収されます。一方、注射剤は水に難溶性であるため、水酸基をリン酸やコハク酸などでエステル化して水溶性を増した製剤となっており、生体内で加水分解されて初めて活性型となり薬効が発揮されます。そのため、内服薬から注射薬、または注射薬から内服薬へ変更する場合、通常は等量で変更し、その臨床効果をみて増減する方法が行われています。

ただし、プレドニゾロンの場合、5~40mgでは生体内利用率がほぼ1に近いとされていますが、連日投与する場合は生体内有効利用率が低下（1.1→0.72）するため、注射時の用量に比べて経口投与時の用量を増量する必要があるとの報告もあります。また、デキサメタゾンやヒドロコルチゾンの場合は、生体内有効利用率を考慮して内服量は注射量の30%増しが必要とされています。

また、経験的に「ステロイド内服を静注にするときに1.5~2倍に増量する」という方法もあるようです。ただし、この件についての文献などは無く、ちゃんと記載してあるのは、「膠原病診療ノート」という書籍だけのようです（以下、抜粋）

- ・静注すると、大量であるほど、血中から消失する率が増す。血中蛋白と結合できない遊離ステロイドが増えて、肝代謝される率が増すためと推定される。したがって、静注投与は治療効果の用量依存性に不確定さをもたらす。
- ・ステロイド経口量と静注量の換算式が、成書に記されていないことは同量でよいということの意味しない。筆者が教わって現在も原則的に従っている方法では、（経口不能または腸管浮腫のとき）プレドニンを静注に変えるなら、経口予定量の1.5倍~2倍の水様性プレドニンを2分割してOne shot 静注ではなく点滴する。

※著者は、この方法の根拠を探し、とある研究会で臨床経験に基づいて提案されたようですが、文献がないこと、Still病で静注を内服に変更した日から解熱した自験例をあげ経験則には限界があることを記載しています。

全身投与ステロイド剤の対応量及びおなじ薬剤間（内服→注射、注射→内服）の変更量についてまとめます。

| 作用時間<br>分類          | 一般名                          | 商品名                 | 力価比 (対コルチゾール) |       | 対応量   | 内服と注射の<br>換算の考え方 |
|---------------------|------------------------------|---------------------|---------------|-------|-------|------------------|
|                     |                              |                     | 抗炎症作用         | 電解質作用 |       |                  |
| 短時間型                | ヒドロコルチゾン<br>(コハク酸)<br>(リン酸)  | コートリル錠(10)★         | 1             | 1     | 20mg  | 内服と注射の<br>3割増し   |
|                     |                              | サクシゾン注<br>ソル・コーテフ注★ |               |       |       |                  |
|                     |                              | 水溶性/ヒドロコートン注        |               |       |       |                  |
|                     | コルチゾン                        | コートン錠(25)           | 0.8           | 0.8   | 25mg  | —                |
| 中間型                 | プレドニゾン<br>(コハク酸)             | プレドニン錠(5)★          | 4             | 0.8   | 5mg   | 内服=注射            |
|                     |                              | プレドニゾン錠(1)★(5)      |               |       |       |                  |
|                     |                              | 水溶性プレドニン注★          |               |       |       |                  |
|                     | メチルプレドニゾン<br>(コハク酸)<br>(酢酸)  | メドロール錠(2)(4)        | 5             | 0     | 4mg   | 内服=注射            |
|                     |                              | ソル・メドロール注★          |               |       |       |                  |
|                     |                              | デボ・メドロール注           |               |       |       |                  |
| トリアムシノロン<br>(アセトニド) | レダコート錠(4)                    | 5                   | 0             | 4mg   | 内服=注射 |                  |
|                     | ケナコルト-A注                     |                     |               |       |       |                  |
| 長時間型                | デキサメタゾン<br>(リン酸)<br>(パルミチン酸) | デカドロン錠(0.5)★        | 25            | 0     | 0.5mg | 内服と注射の<br>3割増し   |
|                     |                              | デカドロン注★             |               |       |       |                  |
|                     |                              | オルガドロン注             |               |       |       |                  |
|                     | ベタメタゾン<br>(リン酸)              | リメタゾン注              | 25~30         | 0     | 0.5mg | 内服と注射の<br>3割増し   |
|                     |                              | リンデロン錠(0.5)★        |               |       |       |                  |
|                     | リンデロン注★                      |                     |               |       |       |                  |

★：当院採用薬（臨時採用を含む）

【参考文献】鹿児島市医報 第48巻第3号（通巻565号） 2009年